

地区復興まちづくり便りへの意見等

1. これまでいただいた意見

■検討会の進め方・メンバーについて

①	まちづくりの会の開催は歓迎します。被災した方々の意見を良く聞いて下さい。(まちづくりの会の委員には、被災した方が少ないと思います。)	(80歳代 男性)
---	--	-----------

■移転について

①	先般の市役所の説明では、神林地区は構造規制等条件付き住宅（パターンA）と非可住宅（パターンB）の案が出されましたが、神林地区の津波は、住宅の2階に達したところはないと聞いています。これは、津波が2m～3mぐらいだったと予想できます。今後、防潮堤が2m高くなれば今回の津波でもほとんど防げるものと考えます。このことから、神林地区を非可住宅とする案は不適切と考えます。	(80歳代 男性)
②	是非、全壊した家、地域は高台移転をお願いします。藤原、磯鶏、高浜、金浜の全壊した家は河南中学校区内ということで実田や河南地区などに団地造成をして移転した方が良いと思います。(全ての地域にアクセスできる道路だから)	(40歳代 男性)

■交通について

①	交通の方では信号も作動して無いので車の運転する人、歩行者のはらはらする場合があります。早く、信号機が動くことを望みます。	(女性)
---	--	------

■施設について

②	藤の川唯一のレストラン、ガソリンスタンドは流されました。宮古市のゴルフ場もなくなりました。海水浴場は子供達の夏休みの遊技場としてもはやされました。今後も遊技場、キャンプ場としても有益に活用可能にして頂きたいし、高校のヨットレース場としても再生可能にして頂きたい。ヨットの競技場として高総体など名が売れてきた矢先の災害。再び競技可能な施設にお願いしたい。藤の川海岸を幼稚園の遠足の場としても楽しめる場を再生してほしいと思います。	(70歳代 男性)
---	---	-----------

■公営住宅について

①	鉄筋コンクリート3階建公営住宅希望します。	(70歳代 男性)
---	-----------------------	-----------

2. 新しくいただいた意見

■避難路について

1	神林部落の神社付近の山林を高台の住宅地として開発してほしい。 高浜から短大に抜ける道を避難路として通れるようにしてほしい。	(70歳代 男性)
---	--	-----------

2	<p>復興にあたっては、今回の震災被害を教訓に後世の人達が同じ被害に遭わないように知恵を出し合い悔いのない計画実行をする事が大切だと思います。そのためにも、堤防の高さ、国道のあり方、土地の嵩上げ、高台移転など最大限のベストを尽くす必要があると思います。</p> <p>また、第 1 回目の検討会の内容を読む限り、復興計画策定にあたり全壊した人、半壊した人、浸水した人、無事だった人の心の底に思いの差があるように思います。全壊した地域では、特に私はまた同じ場所に家を建て住みたいとはとても思えません。将来にわたり安心して暮らせる計画をお願いします。以下、提案します。</p> <p>①今回の震災では、国道 45 号線沿いの建物の被害が大きく、また、その建物が堤防になったお陰で奥の人達は被害が小さく済んだところもあります。<u>是非、堤防を高くするとともに、国道 45 号も愛宕地区から藤の川地区まで嵩上げしてはどうでしょうか。</u></p> <p>②45 号線沿いの全壊した地域は住宅地とすべきではないと思います。<u>植林などして大規模な公園として活用し、今回被害にあった人達は高台移転や代替地にいまの公園を宅地として活用しても良いと思います。</u></p> <p>③また、45 号線沿いの全体構想として、<u>鎌ヶ崎地区から街中、藤原、磯鷄、津軽石地区まで大規模なサイクリングロードを作って自転車愛好家で有名になり全国から人が来るようなサイクリングロードを新しい観光の目玉としてはどうでしょうか。</u> (40 歳代 男性)</p>
3	<p>検討会議に自分の時間を割いて熱心な議論・検討を頂いていることに敬意を表します。議論は進み具体的なまちづくりが見えてきていると思います。ただ残念なのは多くの評論家が言う「高台移転、土地嵩上げで二度と震災に遭わない街づくり」には程遠く、避難道路整備は理解しても他は前の通りに戻して終わりにならないか心配です。復興にあたっては、今回の震災被害を教訓に後世の人たちが同じ被害に遭わないように知恵を出し悔いのない計画を慎重に検討しベストを尽くすことをお願いします。</p> <p>また、前回に書いたように復興計画策定にあたり全壊した人、半壊した人、浸水した人、被害がなかった人の心の底に思いの差があるように思います。海岸近くの 45 号線沿いで全壊した地域では、特に私はまた同じ場所に家を建て住みたいとは怖くてとても思えません。「死ね」「また財産を失え」と言っているようです。将来にわたり安心して暮らせる計画をお願いします。以下、提案します。</p> <p>①国や県の復興計画（防潮堤の高さ、高台移転予算、嵩上げ予算、県が示した浸水シミュレーション）等が具体的に出ましたので、<u>再度住民アンケートを実施してはどうでしょうか。</u></p> <p>②もし、避難道路を建設しただけで以前の街と変わらない復興計画では、亡くなった方々や失った財産は将来に対して意味のないものになってしまいます。県が示した新たな防潮堤での浸水シミュレーションでも浸水は避けられないようです。前回にも書いたように 45 号線沿いの全壊した地域は植林や大規模な公園にするとか、国道 45 号を嵩上げして多重防災にするとか、土地の嵩上げや高台移転をするとか<u>新しい街づくりに「被害を受けない未来志向」の発想で取り組んでほしい</u>と思います。</p> <p>③最後に、今回で 3 度目の意見書になりますが、文書の文字面だけで私の思いやインパクトが通じない部分もあると思いますが震災はまた必ず来ます。少子高齢化、過疎化が進み 20 年後はどれだけの家に跡取りが残っていると思いますか、近所を見回して下さい。高齢夫婦や独居老人、結婚しない息子・娘が多くいませんか、<u>是非、安心・安全なコンパシティーに街を生まれ変わらせるくらいの気持ちで復興計画をお願いします。</u> (40 歳代 男性)</p>